

蜂谷戸防災かわら版

第8号

自分の命は自分で守ろう！

「近助」と「自守防災」！

平成26年8月3日

小川自治会

蜂谷戸支隊

情報・広報班

今月号は、防災豆知識で“地震による被害”を、防災ノウハウのコーナーで“火事を出さない工夫”を採り上げました。

自主防災隊の活動実績・計画

<自主防災隊全体の活動>

7月 7日 「全体防災訓練実行委員会」発足、第1回会合開催

<蜂谷戸支隊の活動>

7月 2日 「非常時の行動手順書」検討チーム第1回打合

ご存知ですか？…防災豆知識

<大地震によるわが町の被害は？>

大地震が襲った時、私達の住んでいる地域で一体どれ位の被害が発生するのでしょうか？

今回初めて、私達の住む蜂谷戸支隊管内における地震による被害を試算しましたのでお知らせします。

- ・震度6弱と震度6強2つの場合を想定しました。
- ・震度6弱は、30年以内に発生する確率70%とされている「多摩直下地震」の場合です。
- ・震度6強は、すぐ発生する確率は低いものの、最も揺れが強い「元禄型関東地震」の場合です。

[蜂谷戸支隊管内被害想定]

被害者数	震度6弱の場合	震度6強の場合
死者数	1人	1人
負傷者数	9人	15人
重傷者数	1人	2人
建物全壊棟数	8棟	17棟
建物半壊棟数	25棟	31棟
焼失棟数	7棟	15棟

- ・死傷者数は、6弱で1%、6強で1.8%です。
- ・建物被害は、6弱18%、6強33%に上ります。
- ・上記想定は、2012年に東京都が発表した町田市全域の被害想定を基に、人口や建物の比率から蜂谷戸支隊管内の被害を試算したものです。
- ・被害は、季節・時間帯・気象により変わりますが、上記は最も被害が大きいケースを示しています。
- ・なお、蜂谷戸支隊管内の総世帯数は約320世帯、人口は約900人、建物は約220棟です。

耳より！…役に立つ防災ノウハウ

<火事を出さない工夫>

1. 地震発生時の行動

強い揺れが収まり安全が確認できたら、次のように火元の確認を行ってください。

- ①ガスコンロや石油ストーブ等の火を消す。
- ②ガスの元栓を閉め、電気器具のコンセントを抜く。
- ③避難する時は、配電盤のブレーカーを切る。

2. 普段からの“火事を出さない”工夫

- ①ガスコンロの上や周りに燃え易い物を置かない。
- ②炊事の最中に離れる時は必ず火を消すように習慣づける。(特に油鍋)
- ③石油ストーブの上や周りには、洗濯物・カーテン等燃え易い物は近づけない。
- ④石油ストーブは、耐震自動消火装置付の物を選ぶ。
- ⑤石油ストーブの給油後は蓋をしっかりと締める。
- ⑥プロパンガスのボンベは転倒防止用鎖で固定する
- ⑦熱帯魚等の水槽は、空焚き防止装置付の物にする。
- ⑧仏壇のロウソクや線香は、離れる時は消す。
- ⑨火災警報器を設置する(できれば煙式・熱式両方)
- ⑩“通電火災”を防ぐため、できれば“感震ブレーカー”を設置する。

* “通電火災”とは、「地震で停電になった時、電源を切らないまま避難した後電気が復旧すると暖房器具や損傷した電線から出火し火事になる」こと。阪神淡路大震災の時多かったのがこの火災です。

* “感震ブレーカー”とは、「一定の震度になると自動的に電気を遮断する装置」のこと。簡易型はホームセンターで売っています。(1千円前後、税別)